

高松学習館運営協議会（令和5年4月）会議録概要

開催日時 令和5年4月26日（水曜日）午前9時30分～午前11時15分

開催場所 高松学習館 第1教室

出席者 [委員] 神山敬章（明星大学名誉教授）

吉田理恵（立川市社会福祉協議会）

服部裕美（高松児童館）

橋本登（立川市市民交流大学推進委員会）

難波敦子（学習館利用団体）

結城まり子（学習館利用団体）

委任状 栗原政子（学習館利用団体）

欠席 3名

[事務局] 榛澤尚武（高松学習館係長）、富田瑞代（会計年度職員）

定数の過半数の出席により会議成立とする。

議事

1. 会長あいさつ

会長欠席のため副会長が司会進行した。

2. 報告事項

- ・事務局より下記について報告があった。

- ・ 人事異動について

生涯学習推進センター(学習館)と社会福祉協議会(地域福祉コーディネーター)の異動について報告があった。第3地区(曙町高松町緑町)の新しい担当者の椿さんより自己紹介があった。

- ・ 砂川学習館閉館について

4月より閉館となっている。2年かけて建て替え工事が行われる。西砂学習館は一部改修工事が行われる予定。

- ・ 文化祭準備会(第2回)について

4/20 作品展準備会で日程、会場レイアウト、担当、パンフレット原稿などを最終確認した。15 団体が作品展に参加する。実費頒布も再開する。

4/21 演奏会準備会で日程、担当、当日タイムテーブル、司会原稿、パンフレット原稿などを確認した。演奏会には5 団体が出演する。

- ・ 高松寿教室開講式(4/12 実施)について

今年度の会員数は現時点で 56 人となっている。年間で健康体操、気功、民謡などの教室を実施する。今年度は日帰りバス研修が予定されている。

- ・ 東京学芸大学との連携事業について

4/20 うち合わせに梅田会長、難波副会長と事務局で大学に赴き、倉持先生と学生さん7人と顔合わせをした。まずは事業開催の日程について概ね決定した。本日の会議に参加の代表の学生の方よりあいさつがあった。

- ・ その他

高松学習館の視聴覚室で雨漏りが発生し、業者に補修を依頼している。

空調(送風、冷暖房)も現在故障しているので修理を手配中。

3. 協議事項

(1) 前回議事録(案)について 承認された。

(2) 文化祭について

作品展最終日 5/21 に実施する地運協ワークショップ(たかまつり)の企画内容、スタンプラリー、当日スタッフ、時程表などについて協議し最終確認をした。高松児童館と社会福祉協議会の協力をいただいて当日は委員スタッフのチームワークで助け合いながら実施することになった。

スタンプラリーのプレゼントはポップコーン、児童館製作のプラバンとオイルモーションを予定。和室では児童館のプラバンづくりの実習、実習室では千代紙人形しおりづくり実習と地域活動紹介相談コーナーなどたくさんイベントを実施するので体調を整えて臨んでいただきたい。

のぼり旗製作も難波副会長と市民リーダーの方で製作していただいている。アンケートを貼るもぞう紙に竹、竹の子を描くのは難波副会長が担当。

当日スタッフ：難波副会長、服部委員、吉田委員、栗原委員、結城委員の予定。当日は東京学芸大学の学生さんも来場される予定。

暑くなる時期のため水分を持参しなかった子どものためにペットボトルの水を事務局で予備として準備する。

地域の専門学校にも事務局であいさつに行ったので今後は連携した事業展開も可能かもしれない。

(3) 地域活性化事業について

- ・防災講座の開催時間帯について事務局より午後に変更の説明があった。

- ・東京学芸大学との連携事業について

今後学生さん達で話し合いを重ねてもらってから具体的な企画の提案をしてもらうことになっている。児童館、図書館、学習館3館合同のたかまつクリスマス映画会・おはなし会の実施時期なので連携していきたい。

次回 6/1 に東京学芸大学で第2回のうち合わせをする予定。

(4) 地運協交流会の企画について(日程は 2/17 予定)

- ・研修会と交流会があり、前回は西砂地運協が担当で学社一体の話が中心だった。

- ・交流会は各地運協の情報交換により活動の特性を発表することで他館の刺激になるのではないか。交流の場であって広がりができればいいと思う。学社一体ということで学習館のポジショニングをどのように広げていくのか、地域のいろんな方々が集まっている地運協でその地域にある学校との連携はどのようにしていけばいいかを考えていく。時代や地域の違いがあり、PTAなどとネットワークづくりは理想だが現実には難しい。学社一体によるモデル的な事業が展開していれば参考になるケースもあると思う。事例発表があるといい。学習館に来るのは子どもだけではなく、高齢者や一般の方もいる。「たかまつり」のような事業で学習館のことを認知してもらえらると思う。学習館が地道にやっていることの中に、例えば児童館とコ

ラボで子ども向けのイベントを入れたり、社会福祉協議会に協力いただいて障害のある方達も参加できるようなプログラムを入れていくなど、一つの切り口をつなげていくことで活動が表に見えてくる。団体だけの活動だと市民に活動内容は見えてこない。活動の見える化をしていく。そういう活動だと皆が集まってきやすい。

- ・学校も学校コーディネーターさんもいつも忙しくされている。手伝うといってもかえってお邪魔になってしまうのかなと感じる。
- ・文科省はコミュニティスクール化を進めていて学校を中心に地域との連携を進めているが、現場は上手く機能していない場合もある。

学校には地域との窓口担当の教員がいる。地域学校コーディネーターの役割ははっきりしていない場合もある。学校側はカリキュラムを全部握っているため、社会教育の持ち込みを拒否される場合もある。学習館と連携ということは難しい。教員の働き方改革で土日は休みとなる。今後どのようにそういった課題をクリアしていけばいいか。協力体制をどうするか、話し合うために集まることもなかなか難しいのが実状。

- ・立川市も学校支援ボランティアが増えている。市民リーダーも学校に行って指導する人が増えてきた。総合学習な学習で専門の人が教える方が子ども達にもわかりやすい。
- ・命の学習ということをおかして授業でやっていた。命と食について学ぶことを全国展開していた。体験学習をどんどん取り入れてきている。たかまつりが高松学習館の定番、特色になっていくといいと思う。地域の専門学校や高校と連携して学習館活動に巻き込んでいくことが地域連携の一つになると思う。他の学習館も同じようなアイデアを出し合っていると思う。
- ・各学習館の地運協委員同士の交流が深まるような企画内容を次回以降の会議で具体的に詰めて決定していくことになった。

4. その他 次回会議日程について確認した。

5. 地域課題共有

- ・ 4/15 都市社連協が昭島で開催された。立川からも2名表彰されていた。
- ・ 社会福祉協議会より
地域福祉コーディネーター紹介ちらしとまちねっと情報誌を配布した。講座紹介や包括支援センターよりお知らせを掲載している。
- ・ 高松児童館より

5/5 子どもの日開催の行事「子ども実験ラボ」について紹介があった。

拡充型放課後子ども教室が始まったので平日の子どもの来館が少なくなるのではないかと思う。

- ・ まちの案内人が少なくなった。地域活性化についてどうしたらいいかと考えている。子ども達だけでなく高齢者にも目を向けていくことも大切だと感じている。社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターの方達の取り組みの話もお聞きしたいと思っている。地運協交流会についても皆で協力してやりたいと思っている。

以上